

飢えない国づくりへー日本の食料安全保障 ～食料争奪戦、どう立ち向かう？～

令和7年9月3日（水）
山梨県消費者団体との意見交換会
（関東農政局 企画調整室）

＜経歴＞ 1998年（平成10年）入省

2010年～2014年 タンザニア国 灌漑省（かんがいプロジェクト専門家）

2019年～2022年 エチオピア国 農業省（農業政策アドバイザー）



背景

グローバル飢餓の予兆

アフリカは、約12億人

→ **約25億人(2050)**



エチオピア連邦民主共和国

面積: 日本の約3倍

人口: 約1億,1800万人(2021)

約 2.1億人(2050予測)

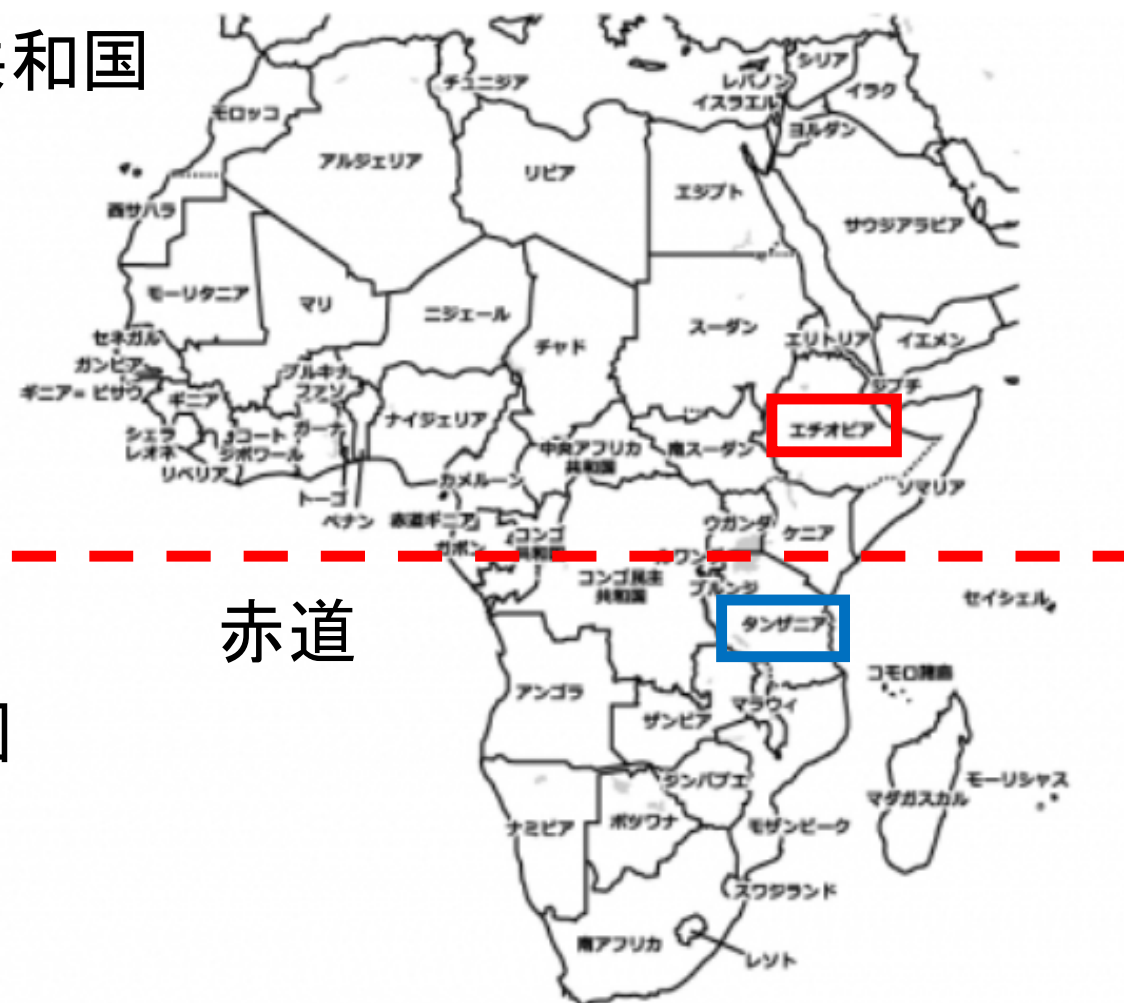


タンザニア連合共和国

面積: 日本の約2.5倍

人口: 6,550万人(2022)

約 1.3億人(2050予測)



日本 約1億2,615万人(2020)

約9,515万人(2050)

エチオピア 農村(冷涼小麦地帯)

人口の7～8割が農家 → 農業国??



エチオピア 農村（雨季の到来）

人口の7～8割が農家 → 農業国??



エチオピア

コメ生産は、1970年代に北朝鮮から



タンザニア 地方部



タンザニア 地方部



タンザニア 雨季の田んぼ



エチオピア都市部

ちょっと前までは見晴らしの景色も



エチオピア都市部

あっという間に高い建物に囲まれます



農村は、どこに行っても子供が多いです



高校生の通学（生徒が多いので、午前、午後の2部制）



食料事情 コメの消費が増えてます



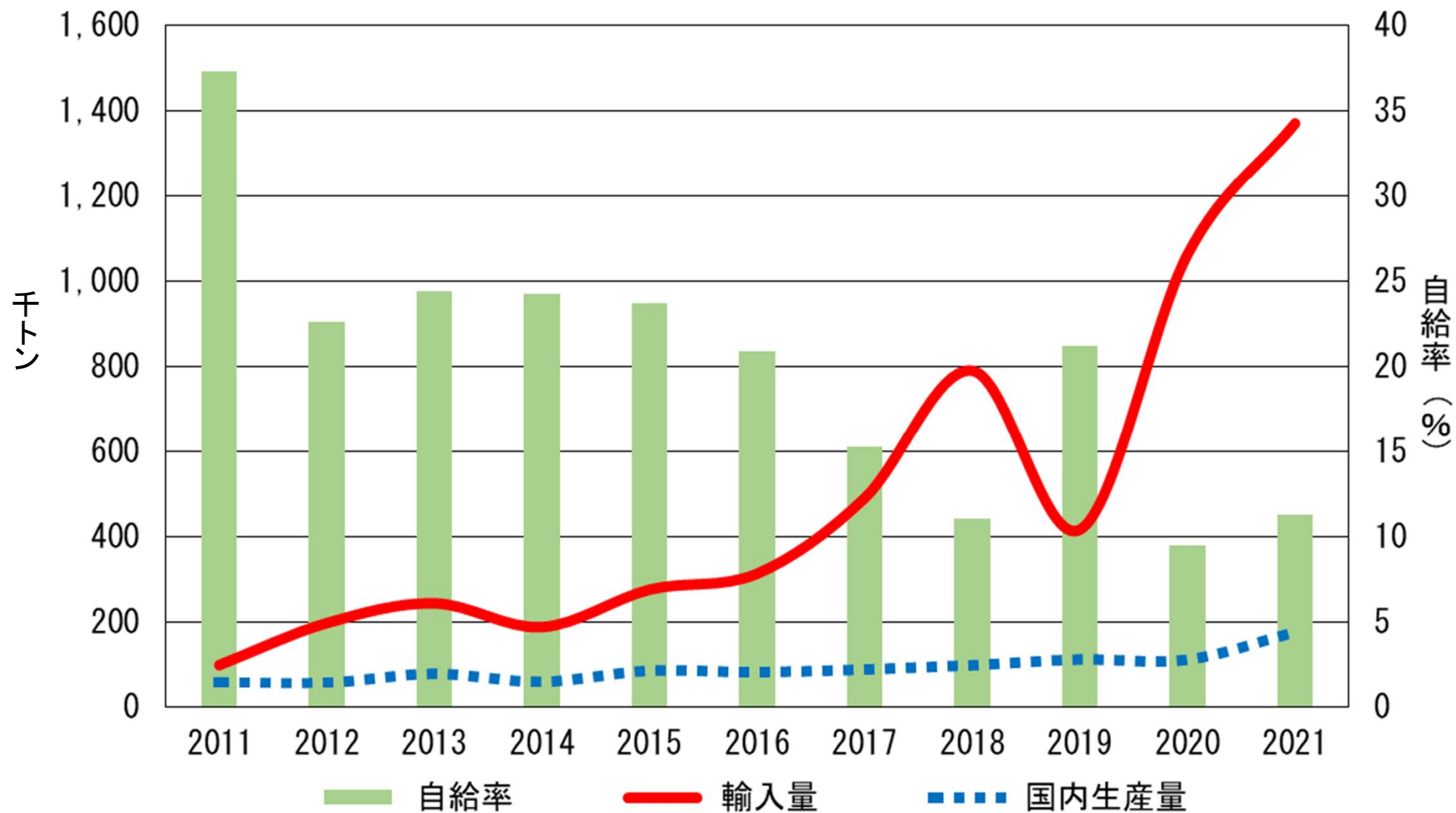
都市部では、ピラフのようにして食べます



エチオピア 穀物が足りず、代替としてコメの需要が急増



エチオピアのコメ輸入（需要に供給がもはや追いつかない）



グローバル飢餓の予兆

コメ不足でも、国産米の品質が悪く、農家は全く儲からない



パキスタンからの輸入米



エチオピア国産米 不足

背景

あと何年、生き延びられる？— 気候変動が奪う未来
小麦の輸入も止まらない → お金が海外に流出



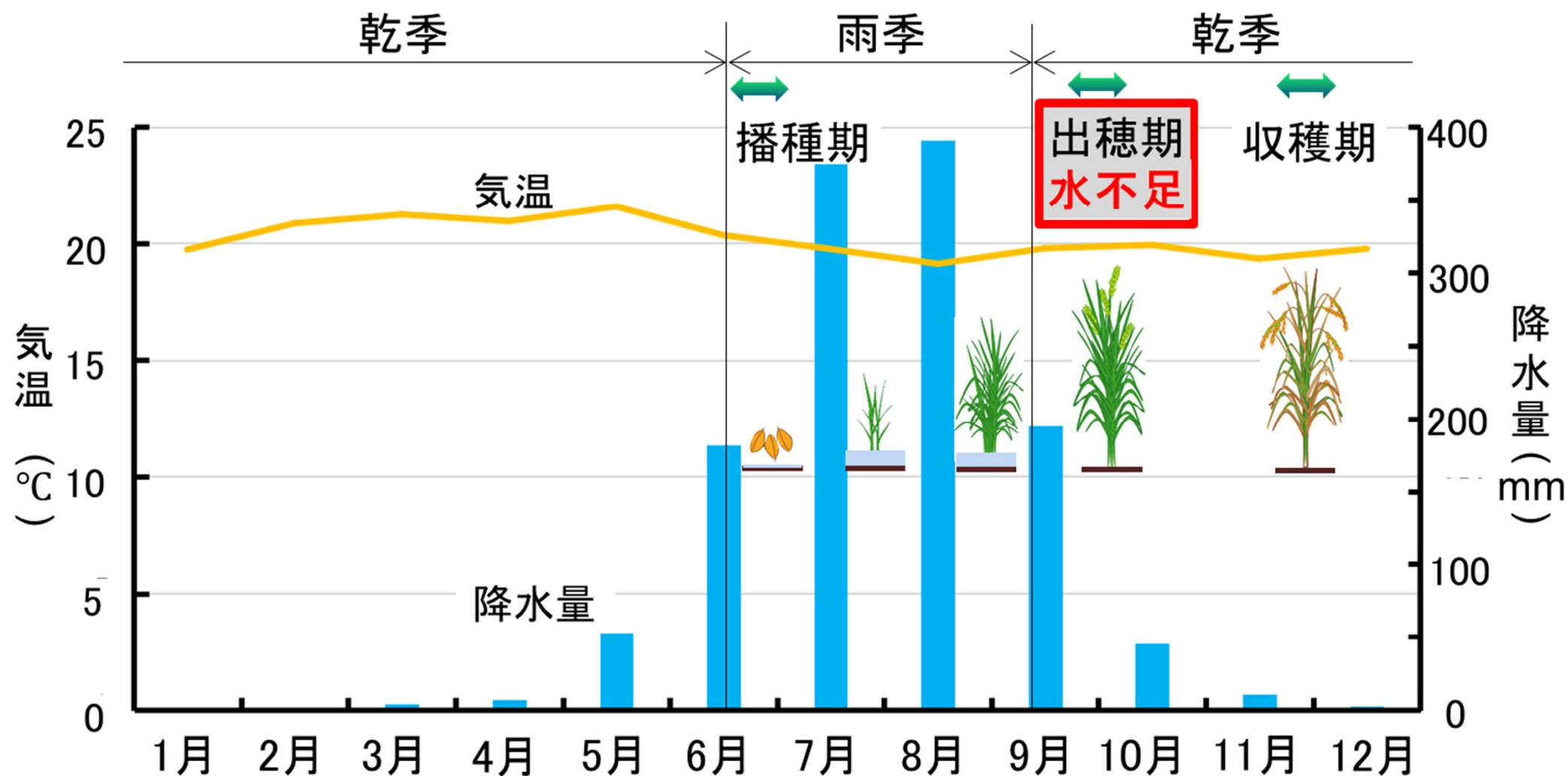
あと何年、生き延びられる？— 気候変動が奪う未来
強い雨で土が急速に流出し、畑が崩れていきます



あと何年、生き延びられる？— 気候変動が奪う未来
雨季に雨が降らず、一粒のコメも収穫できず



農業は、気候変動の影響をまともに受けています



エチオピア北部のコメどころの気温、降雨と栽培暦

乾季に入っても雨が降り続き、コメが収穫できない事態も



気候変動への適応策 **かんがい**

(皆で協力することが大事)



①現場調査



②水路の検討



③チームを作って積算



④集落説明会

気候変動への適応策 **かんがい**

(皆で協力することが大事)



⑤材料収集



⑥品質管理



⑦みんなで施工



⑧完了、通水

世界的な人口増加等に伴う食料争奪の激化

地球温暖化・気候変動



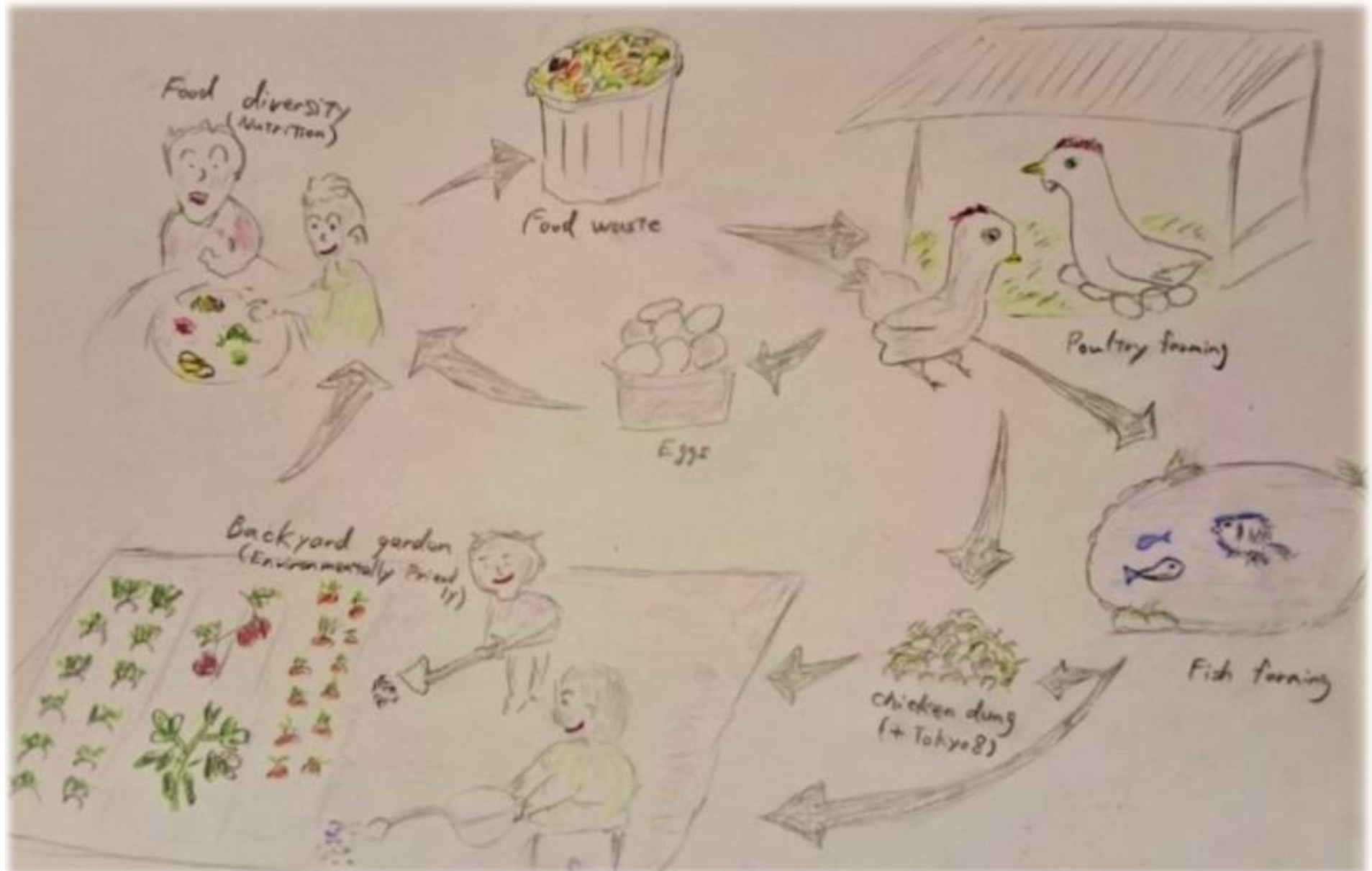
もう止まらない!!

かんがいのような適応策
(対処療法) だけではもたない

「環境と調和した食料システム」がカギに

「農場から食卓まで」。食べ物を生産し、輸送し、加工し、消費するまでの広範なもの。

有機農業は目的ではなく、「私たちが生きる」の手段
究極は、「循環型社会」をつくり、地球環境に貢献



日本国大使館発「栄養改善プロジェクト」

大使夫妻とエチオピア農業省
職員の活動(大使公邸にて)



村民の打合せ



エチオピアと日本で協力して
皆でやりましょう!!

日本国大使館発「栄養改善プロジェクト」 水の確保（井戸）



① 課題への技術支援



② 農民負担等の農民合意

皆でやります

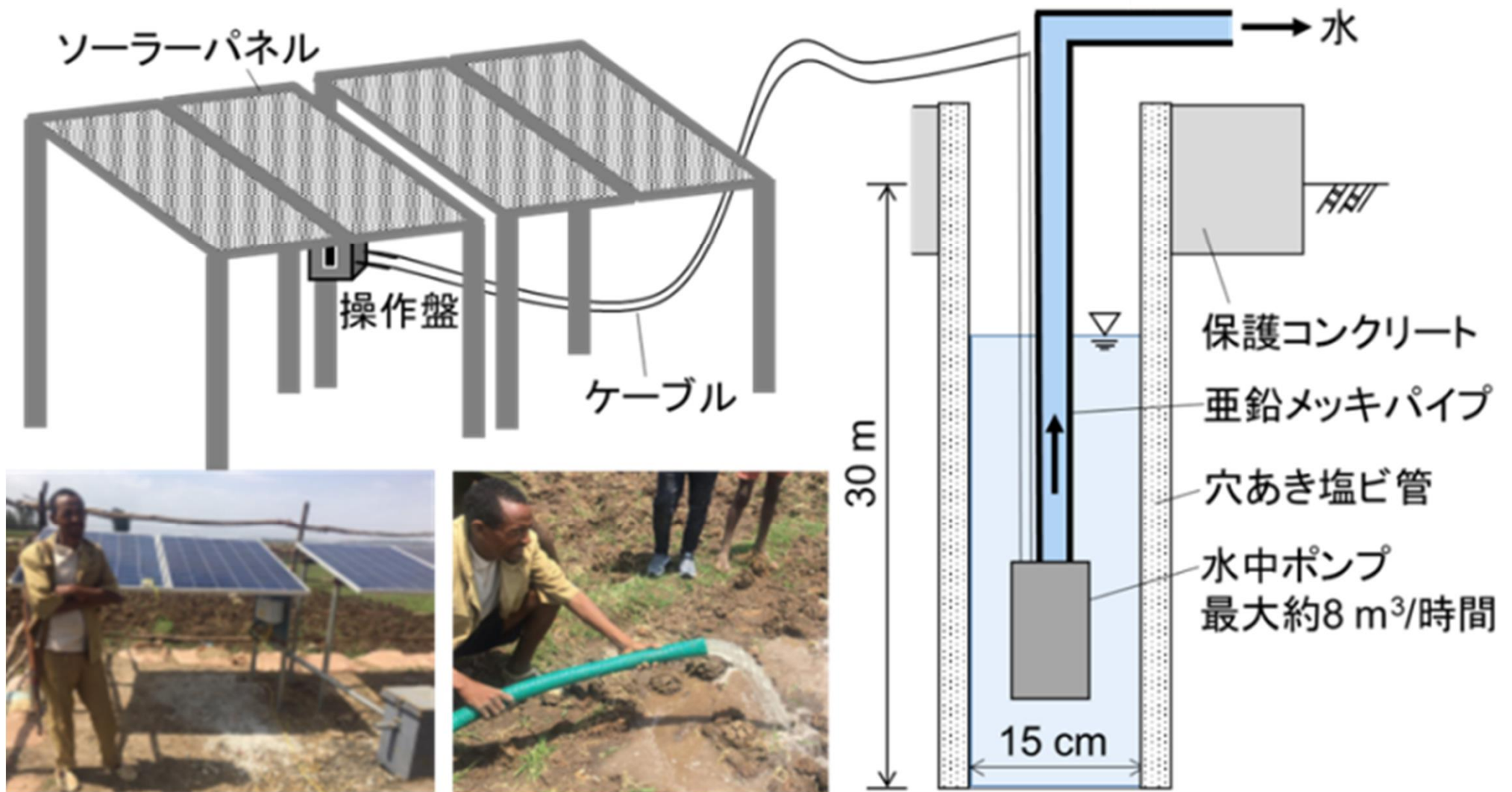


④ 水管理ルールに基づく実践



③ 農民施工

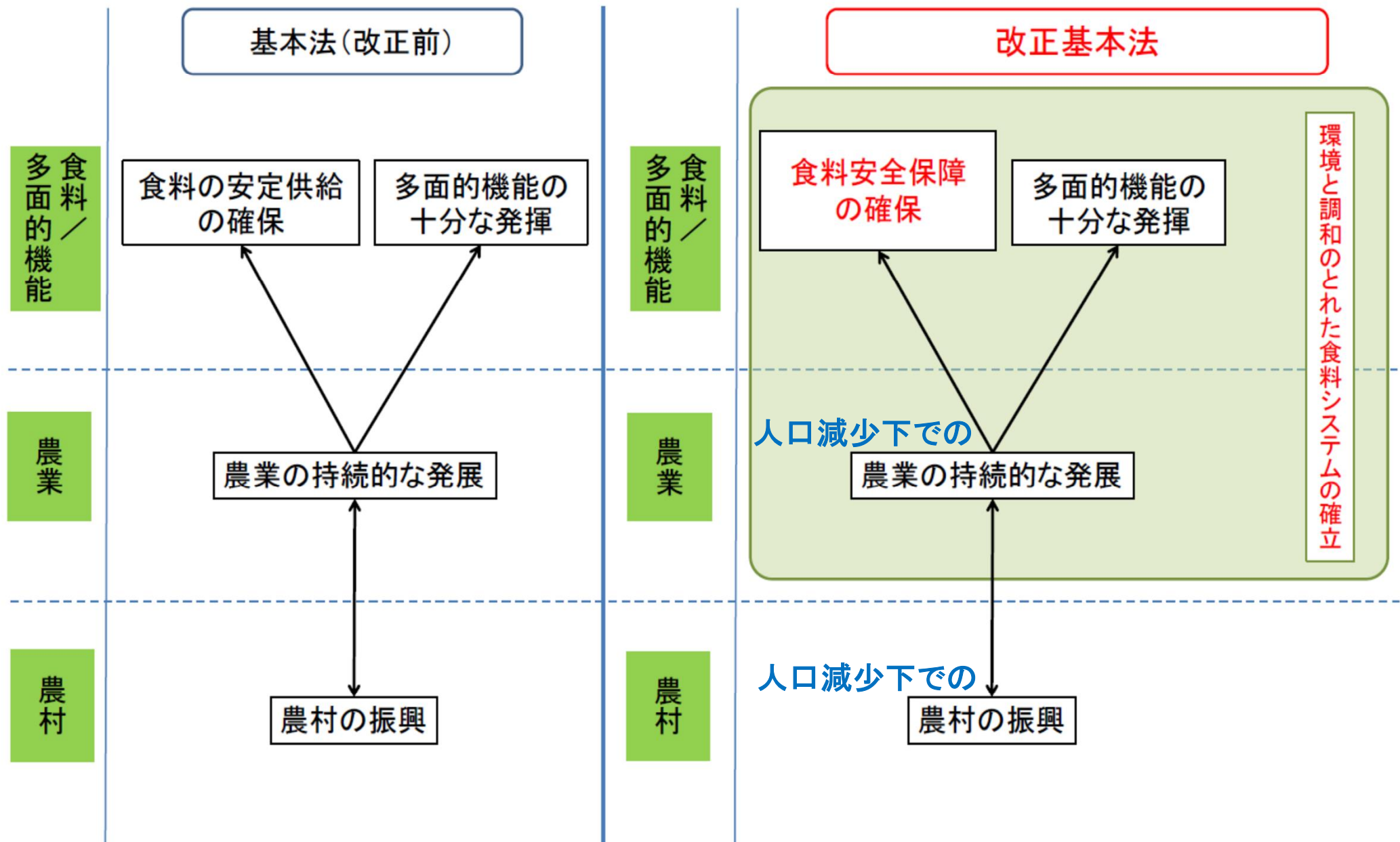
水の確保(井戸)



養魚池 & 鶏小屋 栄養改善と収益増へ！！



(参考) 25年ぶりに改正された食料・農業・農村基本法



食料安全保障を支える2つの法律

食料供給困難事態対策法 の内容



政府の対策本部の設置、
事業者への要請



食料システム法の内容

① コストを価格に反映



② 価格交渉の「努力義務」



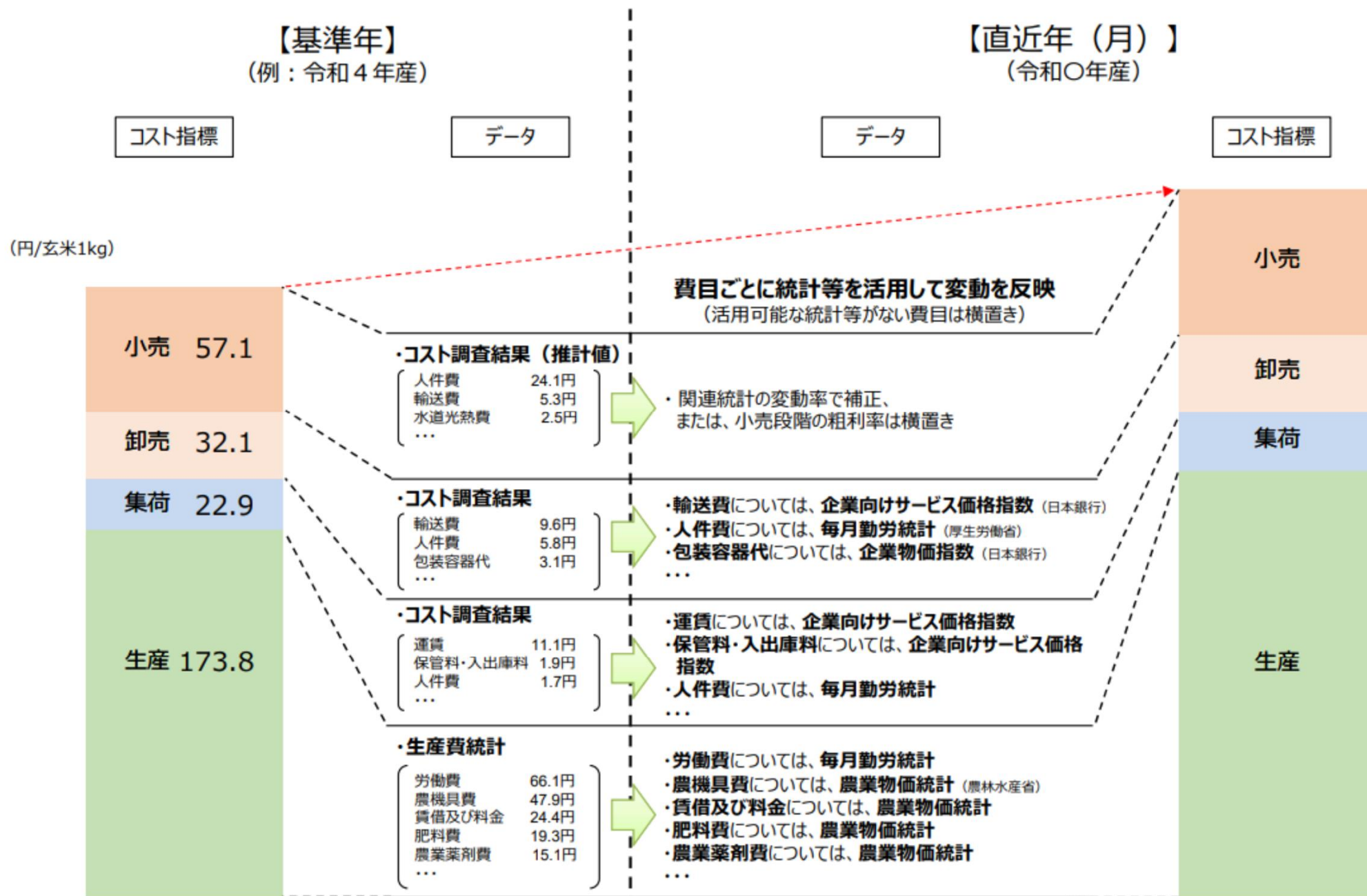
③ 食品事業者の持続可能な活動



消費者の理解が重要!!

米におけるコスト指標のイメージ

R7.4.15 第3回米WG資料



人口減少下での効率化の例

スマホで育ちが悪い場所を判断、ドローンで必要な量だけ施肥



人口減少下での効率化の例

ロボット草刈り機



人口減少下での効率化の例 再生二期作への挑戦

一番穂収穫 8月15日 10俵/反、二番穂収穫11月18日 4俵/反



人口減少下での効率化の例

畦畔除去や暗渠排水等のインフラ整備



わたしたち農林水産省は、

^{いのち}生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を
未来の子どもたちに継承していくことを使命として、

常に国民の期待を正面から受けとめ

時代の変化を見通して政策を提案し、

その実現に向けて全力で行動します。

